



## 失敗は成長のもと～未来を豊かなものに～

11月の音楽会では、子供たちの精一杯の姿に胸を打たれました。その後のご感想やご意見をたくさんいただき本当にありがとうございました。2学期の最終月、12月を迎えます。成果や課題を子供たちとふりかえり、まとめの3学期へつなげていきたいと思います。

先日、朝会にて、「未来をゆたかにするために」ということをテーマに、「失敗の大切さ」について子供たちに話をしました。保護者の皆さんは小学校時代、どんな失敗を経験していますか。私は学校生活の中でたくさん「失敗」をしてきました。その時の失敗は、当時の担任の先生の熱い指導や自分の親の本心に触れることで、大切な記憶として残り、今の自分を形成する「人間力」になっていることに気がつきます。

先日、ある記事に「失敗の大切さ」が載っていました。そこには、①失敗は「学び」のチャンスであること②失敗を乗り越えることで「生きる力」が身につくとありました。「失敗なくして成長なし」、「失敗は成長のもと」という言葉がありますが、子供にとって失敗することは成長していく上でとても重要だと考えています。もちろん、生命の危機につながるようなことはさせるわけにはいきませんが、考え直したり、謝ったりすれば取り戻せる失敗は、人間形成の基礎を育む小学校生活において極めて重要です。

一方で『失敗』することを「恥ずかしい・避けたい」というマイナスイメージでとらえる風潮もあります。たてまえでは失敗は糧であると理解しながら、本音では失敗を避け、成功にたどり着きたいという気持ちが先行します。子供たちは、日々、集団生活の中で出くわす様々な失敗やトラブルを体験することで成長するものです。しかしながら私たち大人は、経験をしているが故に、子供たちが失敗しないように、困らないように、先々を考えて「転ばぬ先の杖」を持たせようとしています。大人が先回りして失敗やトラブルを避けさせたり、大人が解決したりすると、自分で考えようとする意欲や能力がだんだん失われていきます。そればかりか、失敗したとき、自分の力で立ち上がったり、トラブルを自分で解決したりするということができなくなってしまうのです。子供たちは、やがて独り立ちしていきます。その時に困らないために、失敗を乗り越える方法を学ばなければなりません。

子供たちのここ数年のくらしに目を向けると、コロナ禍で話すコミュニケーションが出来にくくなったことや、時代の流れに伴いICTの活用が盛んに行われるようになりました。特にSNSの利用に伴い、新たなトラブルや困り感を抱える場面が増えていると感じています。

だからこそ、子供が困っているとき、迷っているときに、保護者の皆さんや教師など、周囲の大人がほんの少しだけ手を差し伸べたり、アドバイスをしたりして「共に」見守ることが大事なのではと考えます。大人に見守られる中で、子供たちは問題解決へ向けてのひらめきや、思わぬ発見をしていながら心の強い大人になっていくのだと思います。

多聞台っ子一人一人を中心に据え、保護者の皆様と学校がパートナーシップを築き、子供たちの未来をイメージしていきながら「心を育む・つなぐ」活動を粘り強く実践していきたいと考えています。